

## 製品リサイクルの推進

グローバルな観点から使用済みICT製品の回収とリサイクルを推進し、資源循環型社会づくりに貢献しています。

### 生産者責任の考え方

富士通グループは、製品の設計・製造段階だけでなく、廃棄やリサイクルの段階まで生産者が責任を負うという「拡大生産者責任(EPR)」の考え方に則って、各国の廃棄物処理やリサイクルの法規制に沿ったリサイクル活動を推進しています。さらに、自社の製品に対して責任を負う「個別生産者責任(IPR)」にも則って、回収が義務づけられていない国でも、可能な限りの回収、再利用、リサイクルを進めています。

富士通グループにとって、IPRはビジネスを全世界に拡大する上での大きな挑戦ですが、EPRも含めてこれらへの対応を業界団体や各国政府と連携しながら進めることによって、すべての利害関係者の要件や要請を満たした資源循環型の社会づくりに貢献できると考えています。

### 海外における製品リサイクルの取り組み

富士通グループは、EMEA・米州(アメリカ、カナダ、ブラジル)・アジア(シンガポール、フィリピン、オーストラリア、香港、台湾、韓国)で製品リサイクルを実施しています。

#### EMEA:Fujitsu Technology Solutions (Holding) B.V.(FTS)

Fujitsu Technology Solutions (Holding) B.V. (FTS) は、EU27カ国およびノルウェー、スイスで法人および個人のお客様を対象に、パートナー企業による廃棄ICT製品のリサイクルを行っているほか、ドイツの自社リサイクルセンター(Paderborn)で、1988年から再資源化に取り組んでおり、手作業による解体を基本としてきめ細かく素材を分類しています。

また同社は、事業所を設置している南アフリカにおいても、現地のパートナー企業と提携し、2008年から、ブランドに関係なくモニター、プリンタ、携帯電話、デスクトップPC、ノートPC、電卓、テレビやDVD機器など、法人および個人のお客様から廃棄電子製品を回収・リサイクルするサービスを提供しています。南アフリカでのICT企業によるリサイクルサービスとしては初めての取り組みです。

**WEB** FTSのリサイクリング・プログラム  
[http://ts.fujitsu.com/aboutus/company\\_information/business\\_excellence/environmental\\_care/recycling.html](http://ts.fujitsu.com/aboutus/company_information/business_excellence/environmental_care/recycling.html)

#### シンガポール:Fujitsu PC Asia Pacific Pte. Ltd.(FPCA)

Fujitsu PC Asia Pacific Pte. Ltd.(FPCA)は、シンガポールで現地のリサイクルパートナー企業と提携し、2007年から法人のお客様のICT製品リサイクルを推進しています。

**WEB** FPCAのシンガポールにおけるリサイクルの取り組み  
[http://www.fujitsu.com/sg/news/pr/fpcap\\_20071101.html](http://www.fujitsu.com/sg/news/pr/fpcap_20071101.html)

#### ブラジル:Fujitsu do Brazil Ltda. (FBR)

Fujitsu do Brazil Ltda. (FBR) は、現地のリサイクルパートナー企業と提携し、2009年にICT製品リサイクルの仕組みを構築しました。

### 国内における製品リサイクルの推進

富士通は、産業廃棄物広域認定制度の認定業者として、各種契約手続きを含めた産業廃棄物の適正処理を全国規模で受託しています。

富士通リサイクルセンターを国内各地に設置し、日本全国をカバーするリサイクルシステムを構築。徹底したトレーサビリティとセキュリティを確保しながら、高い資源再利用率※を達成するなど、安心・安全なサービスの提供を通じて、拡大生産者責任(EPR)を確実に実践しています。

※資源再利用率:事業系使用済みICT製品の処理量に対する再生部品・再生資源の重量比率。



産業廃棄物広域認定書

#### 首都圏エリアのリサイクルセンター体制の再構築

2010年4月1日より、さらなる円滑な運用をめざして「首都圏綾瀬リサイクルセンター」の活動を「首都圏相模原リサイクルセンター」に集約し、全国8リサイクルセンター体制の枠組みへと変更しました。

#### 全国を網羅する富士通リサイクルセンター

- 富士通リサイクルセンター
- 提携リサイクルセンター

富士通中部リサイクルセンター  
FDKエコテック(株)

富士通西日本リサイクルセンター  
富士通周辺機(株)

富士通九州  
リサイクルセンター  
エコー電子工業(株)

札幌 ●  
富士通東日本  
リサイクルセンター  
(株)エフアイティ  
フロンティア  
金沢 ●  
富士通首都圏相模原  
リサイクルセンター  
富士通化成  
リサイクル(株)

沖縄 ●

### 使用済みICT製品の回収・リサイクル実績

2009年度の法人のお客様からのICT製品回収量は、6,445トンとなり、資源再利用率は、90.8%となりました。また、個人のお客様の使用済みPCの回収台数は、67,662台となりました。

#### 事業系使用済みICT製品の資源再利用率の推移

年度	2006	2007	2008	2009
資源再利用率	91.5	91.8	91.5	90.8

### 再資源化の推進

回収した製品は、熟練者の手作業で丁寧に解体し、鉄、銅、アルミ、貴金属類、ガラス、20種類のプラスチックなど素材ごとに分別しています。また、動画の解体マニュアルを活用して手解体のレベル向上に取り組んでいます。選別の難しいプラスチックについては、材料識別機を導入して、樹脂の種類により分別を徹底しています。

このように、可能な限り廃棄物を減らすとともに、再び製品をつくるための資源へと生まれ変わらせるよう努力を重ねています。こうした取り組みをお客様に知っていただくため、展示会などにおいて再生プラスチックでつくったボールペンやクリアフォルダーを配布するほか、パソコンの手解体を実演しています。



材料識別機



ボールペン



クリアフォルダー

### 製品リサイクル情報の提供

富士通は使用済みICT製品を適正に処理するために、解体マニュアル電子管理システムを開発し、2004年度から運用しています。

このシステムを通じて、含有化学物質、プラスチック材質、顧客データが保存されるユニットなど、製品リサイクルに必要な情報と動画形式などの解体マニュアルを社内ウェブサイトから富士通りサイクルセンターに提供しています。



動画形式の解体マニュアル



解体マニュアル電子管理システム

### トレーサビリティシステムの開発

富士通はリサイクル統合情報管理システムを開発し、2007年度から富士通りサイクルセンターに導入しています。

このシステムでは、お客様のICT製品にバーコードを貼り付け、リサイクルセンターの受入から解体、ハードディスクの破壊処理完了に至るまで、リサイクルプロセスの履歴をお客様ごとに情報管理することで、盗難や不法投棄を防止します。

### 富士通の統一リサイクル工程

